

平成30年7月24日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題	匹見町わさび生産者組合に新たな風 ～ I ターン新規就農者が新組合長に就任！～
-----	--

(ダイジェスト)

7月2日に匹見町わさび生産者組合総会が開催され、今年度の事業計画等が審議・承認されました。

本年度は役員改選があり、副組合長を務めていた I ターン新規就農者の M 氏 (30代) が新たな組合長に選出されました。

高齢化が進む生産者組合においては、M 氏の若い行動力に大きな期待が寄せられています。

益田市匹見町は古くからのわさび産地として知られていますが、高齢化により生産者が激減し、わさびの生産量もこの5年で60tから30tにまで半減しています。

益田市では新たな担い手として、I ターンによる新規生産者を受け入れてきましたが、水わさび栽培は生産基盤の確保が難しく、また定植から収穫までの期間が長く、更には自然災害の影響を受けやすいという特性から新規による経営は厳しい状況にあります。

そのような中、M 氏はわさび生産の実績を上げつつ、地域の行事や活動にも積極的に参加し地域の信頼を得ることで、着実に水わさびのほ場を確保し生産量を増やしてきました。またパイプハウスを整備し、加工原料用わさびの短期栽培、後作にはミニトマト、冬期は山菜栽培を導入し経営安定に努めています。

このような取組が認められ、就農5年で副会長に就任し、この度組合長に選出されました。就任のあいさつでは「歴史ある産地の組合長に就任することにプレッシャーを感じるが、皆さんの協力を得ながらがんばっていきたい」と決意表明がありました。

匹見町わさび生産者組合では昨年からM氏の提案により、組合として優良系統の選抜を始めており、今後はバイオセンターの有効活用も計画しています。

普及部としても若い組合長の前向きな提案が組合の活性化、生産量の増加に繋がるよう支援していきます。